

【令和3年3月現在】

鹿児島県における農業用ハウス強靱化緊急対策事業取組内容

【経緯】

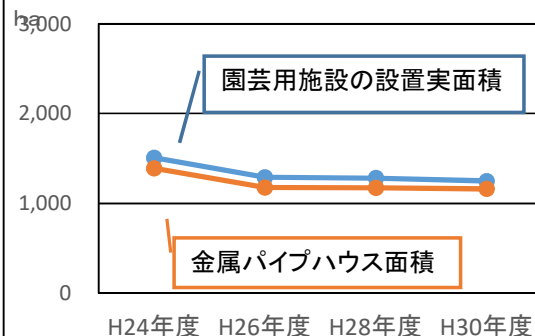
本県では、施設園芸農家の経営安定と農作物の品質向上を図るため、本県の気象条件や園芸作物への適応性を考慮し、低コスト耐候性ハウス及び強度の高いパイプハウスなど普及性のある「県標準型ハウス」を選定し、農業用ハウスの計画的な普及を進めている。

このような状況の中、近年の台風や強風により、農業用ハウスへの被害が見られることから、農業用ハウスの台風・強風被害の防止・軽減を図るため、県内施設園芸産地に対して、ハウスの補強や保守管理等の被害防止対策を推進した。

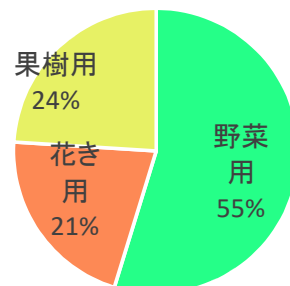
【鹿児島県における農業用ハウスの状況】(H30年)

- ・ 農業用ハウス 1,249 ha
- ・ うちパイプハウス 1,160 ha

園芸用施設の設置実面積の推移



H30 金属パイプハウスの作物別割合



出典：園芸用施設の設置等の状況(H30)

【対策の内容】

- ・ 被害防止技術講習会の開催
- ・ 既存ハウスへの被害防止対策の推進等

○具体的な取組内容

県内全域において、農業用ハウスの被害防止・軽減を図るため、施設園芸農家へハウスの保守管理等推進し、災害に強い施設園芸産地づくりに努めた。

- ・ 「施設園芸用ハウス台風・強風対策マニュアル」及び「風害被害軽減リーフレット」の作成・配布
- ・ 農業者自らがハウスの補強や保守管理を行うための「農業用ハウス補強対策講習会」の開催
- ・ マニュアルを活用した補強対策研修会の開催
- ・ 補助事業を活用した農業用ハウスの補強、防風ネット設置等の支援

※金属パイプハウスは、一般的な農業用パイプハウスを指す。

【令和3年3月現在】

農業用ハウス強靱化緊急対策事業の取組概要

【鹿児島県垂水市】

1.地区の概要

- ・ 垂水市では、さやいんげんの栽培が盛んであり、特に本城地区は栽培の歴史も長く、耐用年数を超えて老朽化した施設も多いため、営農継続に向けてハウスの保守管理が必要である。
- ・ 同地区は台地の上場にあ、台風等の強風による倒壊などの被害が発生しやすく、被害軽減対策が必要である。

2.取組内容、効果

【取組主体の概要】

- ・ 農業用ハウス 0.26ha うちパイプハウス 0.26ha(H30年)
- ・ 補強が必要なハウス面積 0.26ha

【取組内容】

- ・ 主な補強の方法:水平梁設置による補強

【補強方法を選んだ理由】

- ・ 強風による側面や天井面からのハウスの横倒防止を図るため。

【効果】

- ・ 耐風強度が概ね68%向上し、倒壊被害を防止。

3.今後の取組

- ・ 災害発生前に「台風被害を防止するためのチェックシート」の確認による保守管理
- ・ 園芸施設共済保険及び収入保険の加入

4.補強の概要

補強名:水平梁補強



水平梁(5m間隔で設置)

【令和3年3月現在】

農業用ハウス強靱化緊急対策事業の取組概要

【鹿児島県伊佐市】

1.地区の概要

- 伊佐市大口青木地区は、にがうりを主に栽培している。
- 風を防ぐ樹林帯等や構造物が周辺にないため、台風等により強風を受けやすいことが課題である。
- 老朽化によりハウスの十分な強度がないため、台風等で倒壊する恐れがある。

2.取組内容、効果

【取組主体の概要】

- 農業用ハウス 0.3ha うちパイプハウス 0.3ha (H30年)

【取組内容】

- 筋交い直管による補強 0.3ha

【補強方法を選んだ理由】

- 営農の障害にならない。
- 自力施工できる。

【効果】

- 比較的安価でハウス全体の耐風性を高めることができた。

3.今後の取組

- 台風時の事前対策周知
(積極的な気象状況収集、ハウス周辺部分の片付け等)
- 日常管理の周知(メンテナンス、点検)
- 園芸施設共済保険加入の推進

4.補強の概要

補強名:筋交い直管による補強(自力施工)

補強資材を購入し、有効な位置に取り付けることによってハウス構造の強度を上げる。



購入した補強資材



施工後

